



予算特別委員会の審査から

令和8年度の当初予算について、予算特別委員会で審査しました。質疑の一部を紹介します。詳細は後日、会議録に掲載されます。(公開予定は10面へ)

令和8年度当初予算

新たな健康づくり eスポーツの活用

健康eスポーツ事業

問 今後の到達目標は。
答 令和8年度策定予定の高齢者保健福祉計画の中で、これまでの効果検証や高齢者のニーズを踏まえ、事業やイベントの参加者数など具体的な数値目標を整理していく。
問 参加者の声は。
答 活動場所が近くにない、気軽に参加できる活動が少ないといった声が寄せられており、令和8年度は高齢者の介護予防の一環として、気軽に参加できるeスポーツ活動を推進する取組を進める。

若者の経済的負担を軽減、生活力の向上へ

奨学金の返還を支援

問 対象の人数は。
答 進学率や貸与型の奨学金を利用している学生の割合などから、市内でおおむね200人を見込んでいる。
問 周知の方法は。
答 市ホームページ、チラシ、ポスター等による周知をする。奨学金の貸与機関にも、奨学金返済の支援の開始について周知していただくよう依頼をする。



部活動の地域展開

民間団体等が運営する地域クラブ活動へ委託を試行的に実施

問 保護者、子どもたちへの説明はどのように行うのか。
答 チラシを作成し、4月以降に周知する。
問 民間団体の選定は、どのように行うのか。
答 市で部活動指導員や外部指導者などで実績のある民間団体の選定を検討している。

前年度との比較で見る 令和8年度の予算

(単位:%)

会計区分	令和8年度	令和7年度	増減率
一般会計	914億5,860万円	887億3,968万円	3.1%
特別会計	455億2,551万円	433億8,410万円	4.9%
国民健康保険特別会計	194億2,894万円	189億2,455万円	2.7%
駐車場事業特別会計	2億2,493万円	1億2,469万円	80.4%
介護保険特別会計	195億1,581万円	185億2,392万円	5.4%
後期高齢者医療特別会計	63億5,583万円	58億1,094万円	9.4%
公営企業会計	47億7,466万円	43億5,319万円	9.7%
下水道事業会計	47億7,466万円	43億5,319万円	9.7%

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計額と一致しない場合があります。
 ※下水道事業会計の予算規模は、支出予算の総額としています。
 ※各年度の予算は、各年4月1日時点のものになります。
 (令和8年度予算は、補正予算(第1・2号)を反映後の金額)
 (令和7年度予算は、補正予算(第1号)を反映後の金額)

聞こえをサポート 補聴器の購入費助成

高齢者聞こえのコミュニケーション支援事業

問 今後の流れは。
答 市のホームページや市報、周知チラシで事業内容を市民に広く周知する。4月から5月には、市医師会の協力を得て、耳鼻咽喉科医や補聴器専門店に協力を依頼し、6月から申請受付を開始予定。
問 補聴器の装用までの具体的な流れは。
答 申請者は市に申込み、市から医師意見書の様式を取得したのち、耳鼻咽喉科医で必要性を証明し、市に提出する。その後、市が補助金交付を決定し、認定専門店で補聴器を購入する流れとなる。
問 購入後の効果検証の方法は。
答 購入者にアンケートを実施し、補聴器の使用状況や社会参加の確認をする。利用が進んでいない場合は手紙や電話で状況を確認し、必要に応じて訪問調査を行う。



業務改革(BPR)を推進

全庁業務量調査の実施

問 BPRの関係の予算が令和7年度に比べて大きく増加した要因は。
答 令和7年度は、令和8年度に実施予定の全庁業務量調査に向けた職員研修や機運醸成を主な目的としており、令和8年度には実際の調査実施のため予算を増額している。
問 BPRの具体的な進め方は。
答 全庁業務量調査を実施し、業務を職員が担うべきものと職員以外でも可能なものに分類する。その結果に基づき職員定数の適正化や外部委託化・デジタル化を検討する。既存のAI技術の効果検証も行い、全庁的な業務改革を推進する。



保谷第一小学校・田無第三中学校の複合化

建て替えと併設予定施設の更新費用

問 各学校の建て替えにかかる初期費用の試算は。
答 学校施設のための建て替え費用は、令和6年3月時点の試算で保谷第一小が約44.3億円、田無第三中が約50.2億円。
問 併設予定の公共施設をそれぞれ単独で更新した場合の費用の試算は。
答 保谷第一小分(保谷第一学童クラブと下保谷学童クラブ等)で約7.2億円、田無第三中分(田無町市民集会所、芝久保第二市民集会所、けやき保育園、西原北児童館、西原町地域包括支援センター等)で約13.2億円。

複合化によるコスト削減と維持費

問 計画では更新費用の10%削減を目標としているが、複合化によって延べ床面積が増える中、建設費やランニングコストの抑制をどう図るのか。
答 複合化により、廊下やエレベーター等の設備を共用化することで面積の集約を図る。ランニングコストは、最新の省エネ設備の導入などにより抑制を図る。



▲保谷第一小学校

田無第三中学校周辺のエリア構想

問 地区計画の策定スケジュールは。
答 令和8年度の都市計画審議会にて内容を示す。中学校施設の建て替え計画に影響を及ぼさないよう努める。
問 地区計画の策定に当たり、市民への説明や意見聴取の機会の予定はあるか。
答 他の地区計画の事例等も踏まえながら、適切な機会を確保できるよう努める。



▲田無第三中学校